



VOL.57 令和3年 12月 15日発行

発行元：東大阪市介護支援専門員連絡会

ゆずりは



会長あいさつ 松岡 真

師走を迎え、なにかと気ぜわしい毎日ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。会員の皆様には東大阪市介護支援専門員連絡会の運営にご協力くださり、厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルスによる感染者数も比較的落ち着いており、街も少しずつ賑わいを取り戻してきております。デイサービスや介護施設においても、クリスマスの飾りつけやクリスマス会などの行事も再開され、入所施設には、東大阪市より対面による面会の検討を促す通達も来ています。私たち介護の世界においても、以前とは形を変えつつも、それぞれが前へ進んで行こうと動き出しているのを感じます。しかしながら、新たな変異株なども発見されており、完全に元通りとなるにはもう少し時間がかかりそうですね。

当連絡会において、今年度は各交流会など全てオンラインで行っています。当初はわれわれ幹事自身も、『Zoomとは何ぞや?』の状態でした。その状態でもまず幹事会をオンラインで開催するようになり、その後いろいろな方の協力もあり、何とか交流会を開催できるようにまでなりました。オンラインでの交流会を始めた当初は2~30名ほどの参加でしたが、みなさんオンライン研修への抵抗もなくなってきたのか、はたまたその利便性に気づいたのか、現在では倍の5~60名の参加をいただいています。申し込みから招待メールの配信、当日の運営など全て幹事で行っています。不慣れなためご不便をかけることもあるとは思いますが、少しでも会員のみなさんのためになるものをと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

研 修 報 告

■『会員どうしの交流会（オンライン）』

～繋がりを感じよう！日頃の疑問も共有しましょう～

7月16日、会員どうしの交流会を開催しました。参加者25名でした。グループワークを行い、「印鑑いらなくなったけど皆さんどうしていますか？」「ICTや事務職員配置で減 45件までとなりましたが、皆さんどうしていますか？」「コロナウイルスに関する事」等、活発な意見が出ました。「顔を見ながら疑問を共有できて良かった」「他事業所のケアマネさんと情報交換できた。」「ウェブなら行く時間のロスもなく良かった」等のお声がありました。

今年度の法改正の疑問や日頃の業務に対する悩み等を共有する事ができ、有意義な交流会となりました。様々な変化がある中でケアマネとして前を向いて取り組んで行けるように、これからも繋がりを感じられる機会を作っていきたいと思います。



■「障害支援から見た8050問題」

10月12日、「障害者支援から見た8050問題」というテーマで、基幹相談支援センター統括主幹の児玉祐子先生をお招きし、講義を開催させていただきました。

今講義では、少人数での対面による講義も検討しましたが、感染症拡大の状況を鑑みオンライン上での講義を行い、48名の参加がありました。

研修の内容としては、先生の関わった事例を参考にお話しして頂き、研修後のアンケートでも「講師の先生の事例の話が参考になりました。」や「障害のことは今までも勉強したいと思っていました。今後も色々勉強をしていきたいと思います。」等の回答を頂いております。

今後も、多職種連携に関わる研修もさることながら、皆さんの業務で少しでも活かせるような研修を企画していけるよう頑張っていきますので、よろしくお願い致します。

■「適切なケアマネ手法」とは？

～ケアプラン帳票・記載要領の一部改訂について～

11月19日、今年の法改正に伴い、適切なケアマネジメントについてZOOMにより開催し、64名の方に参加していただきました。

講師の村山尚紀先生は、公益社団法人大阪介護支援専門員協会に在籍され、介護支援専門員の研修などでご活躍されていて、今年の介護報酬改定でどのような方向で改正されたのか、前回の改正も踏まえてわかりやすくお話していただきました。

研修を通して「なるほど！ そうだったのか！」と気づきも多く、今後のお仕事に役立てる事が出来ました。

村山先生への質問のお答えにつきましては、東大阪市介護支援専門員連絡会のホームページでお知らせの予定です。



『ホームページ随時更新中！』

広報部では年数回の「ゆずりは」を発行し、郵送とホームページで会員の皆さんに情報提供を行っています。会員の皆さんの意見や希望も随時募集しています（ホームページの「ご意見・ご感想」から） 一度ご覧ください！

アドレスはこちら <http://higashiosaka.pupu.jp>